

「城上小学校の太鼓踊り伝承活動の取組」

1 学校名

薩摩川内市立城上小学校

2 学年・人数

小学3年生から6年生の希望者

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和5年7月26日～8月8日

令和5年8月4日（金）

城上地区コミュニティセンター

発表前の練習（城上小学校校庭）

(2) 発表の日時・場所

令和5年8月6日（日）

第1回城上小学校校庭

第2回児美神社奉納（児美神社）

第3回今寺公民館

4 伝承活動に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

太鼓踊り（たいこおどり）

(2) 由来

高城の地頭「重雄」父子3人の霊を鎮めるために高城神社が建立された。毎年7月10日に例祭を行い、土農ともに神霊の慰安・冥福を祈り、踊りを奉納したと言われている。

太鼓踊りは、昭和11年から中断したらしい。しかし、昭和60年に城上公連会で城上郷土芸能（雨乞いや五穀豊穰を願う行事）として残すことに決定した。昭和61年に城上校区全体から踊り手を出すことになった。現在は、太鼓踊り保存会が中心となって、中間集落に伝わった「ツシ楽」が踊られている。

《参考》

「地頭重雄」は、度々の合戦で負傷し、地頭職を務めることが困難となって湯田村へ隠棲した。

(3) 構成等

平成12年8月の踊り手は30人であった。年々参加人数が減っていたが、今年度の踊り手は発足当時に迫る30人ほどとなった。太鼓踊りの楽器については、踊り手との関連で決まるようである。

大太鼓の服装は、白装束、白襦袢、襟は黒布、黒帯、白足袋、草履履きである。背中に素麺幣（ソーメンペ）状に、6尺のコサン竹に幅20cmの障子紙を20本くらい括る。その上に造花をつけ、頂上に羽根毛を5、6本つける。頭には豆絞りの鉢巻きを締める。

鉦の服装は、白いステテコ、白襦袢、半袖の半纏、赤い帯、脚絆、白足袋、草履、花笠である。

唐太鼓の服装は、襦袢、帷子（カタビラ）、黒帯、青襷、白足袋、紙草履、花笠である。

5 保存会や地域との連携

例年、太鼓踊り保存会が各自治会へ参加依頼し、参加者を募っている。しかし、児童数の減少や少年団活動との行事等が重なり、参加者は年々減っていく状況である。

これまで参加する条件が小学4年生以上であったが、条件を緩和し、小学3年生からも可能とした。また、授業などに講師として参加していただくなど、関係を深めている。

6 文化財伝承・活用の取組で工夫した点

学校と地域が連携協力しながら太鼓踊りを継承していくために、3年生の社会科単元「のこしたいもの、つたえたいもの」で、太鼓踊りを取り上げて学習する。昔からつづく伝統行事や伝統芸能について調べる際に、学校応援団として登録していただいた太鼓踊り指導者を招聘し、鼓踊りが身近にあることを実感させるようにしている。

令和5年度からは、「ふるさとコミュニケーション科」の活動に位置付け、3年生以上の児童が体験できる機会を増やしている。今後も継続して地域と連携し、太鼓踊りを伝承していけるような体制を整えていきたい。

また、全校朝会で太鼓踊りについて取り上げて、郷土芸能を継承する大切さについて話している。さらに郷土芸能の継承活動の様子等を学校だよりで保護者や地域住民へ積極的に広報している。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【地域の方による太鼓踊りのお話】



【太鼓踊りの練習風景】



【城上小学校での太鼓踊り披露】



【城上小学校での太鼓踊り披露】

8 感想・意見

【児童】

- ・ 地域の方が、やさしく教えてくれて上手に踊れました。これからも伝統を続けていきたいです。
- ・ 楽しくて、またやりたいと思いました。それに、地域の人や親が喜んでくれてうれしかったです。
- ・ 伝統を守るために、下の学年のみんなに、今後は教えていきたいと思いました。
- ・ 練習は大変で疲れたけれど、またやりたいと思いました。